

東北支部年報

第 38 号

〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉 1-5-15

日本生命仙台勾当台南ビル 4F

TEL 022-265-3404

FAX 022-265-3405

E-mail: aij-tohoku@nth.biglobe.ne.jp

巻頭言

未来へつなぐ

東北支部長 小林 淳

IT 技術の進歩などにより、世の中は大きく変わりつつあります。利便性ととも、一方では複雑さが増し、人間の感性としてその変化に追随することが難しい状況も生じ始めているように感じられます。ここで忘れてはならないのは、文明の進歩は利便性を実現するとともに、その過程で文化を生み出さなければならないということです。革新的技術は社会のあり方を一夜にして変えてしまうこともあります。文化とは一朝一夕に作られるものではありません。利便性を根拠として新しさのすべてを受け入れ、古きものは過去として忘れ去られるべきなのでしょうか？検索エンジンが大活躍する時代に、つい先日、広辞苑の第7版が出版されました。その必要性については議論の分かれるところですが、建築の世界も例外ではなく、手書きの時代から CAD の時代へ、計算尺の時代から構造ソフトへと変わる中に、失われてはならない何かがあるように感じます。建築の姿も例外ではなく、形が創られ、時を経てその存在意義は変わり、時代の変化とともに創作時の意図を受け入れられなくなることもあります。歴史・文化として残すべきものも少なくありません。

建築学会東北支部は建築文化の発展と未来への継承を念頭におきながらの活動を心がけております。建築にか

かわる研究活動は多岐にわたり、建築に携わる者でもその全領域は理解しがたいものになりつつあります。まずは会員の交流による相互理解と技術研鑽が不可欠ですが、その中身を広く社会に理解してもらうことも重要です。だれでも楽しめる「親と子の建築講座」、あるいは高校生を対象とした「建築提案コンテスト」などがその一例で、建築の果たす役割を解り易く社会に向けて発信することで、その意義を身近なものと感じていただくためのところみです。9分野にわたる研究部会における研究活動、優れた建築作品・設計作品を対象とした顕彰事業などとともに、東北支部の重要な活動となっています。

さらに本年は、各支部持ち回りで実施される日本建築学会最大のイベントである建築学会大会が9月4～6日に仙台で開催されます。全国から1万人を超える会員の皆様が東北の地を訪れる予定です。「建築の声をひとつに」という理念のもと、今回は「記憶／未来」をテーマとし開催されます。学術講演会とともに開催される特別企画は、みちのくの文化とともに、先の震災から立ち直りつつある東北の姿をご理解いただく好機と言えます。6月16日に青森市を会場として開催される東北支部研究報告会も含めて、建築の心をひとつにして、建築文化の流れを未来へつなぐための好機となることを祈念して巻頭言としたいと思います。

もくじ

□巻頭言	1	□2017年度東北支部建築デザイン発表会	8
□企画記事	2	□2017年度日本建築学会東北支部総会報告	9
□第38回東北建築賞作品賞選考報告	3	□研究部会活動報告	10
□第38回東北建築賞研究奨励賞選考報告	6	□支所だより	13
□第38回東北建築賞業績賞選考報告	6	□支部役員会から	15
□第28回東北建築作品発表会報告	7	□支部役員名簿	17
□第37回東北建築賞表彰式及び展示会報告	7	□2017年度事業報告	18
□日本建築学会作品選集2018 東北支部選考経過	7	□2018年度事業計画(案)	20
□2017年度設計競技東北支部審査報告	7	□法人・賛助会員名簿	22
□2017年度東北支部研究報告会報告	8		

企画記事

(1) 「みちのくの風 2017 秋田」開催報告

常議員（総務企画） 永井 康雄

開催日：2017年6月17日（土）、18日（日）

会場：由利本荘市文化交流会館カダレー

1) 支部研究報告会

発表題数：84題

参加者：17日（土）127名、18日（日）80名、延べ207名

・発表題数・参加者ともに昨年と同等。ただし、来場者全員が記帳していない可能性もあり、また初日のみ記帳する場合も考えられ、実際の参加者はもっと多いものと思われる。

2) 建築デザイン発表会

発表題数：6題

参加者：約30名

・今年度で3回目の開催であり、昨年度よりは発表題数が増えたものの、更なる参加者の増加が望まれる。
・発表会は、順調に進行された。

3) 招待講演（計画系）招待講演

テーマ：「地域活性化を促す公共建築」

講演者：仙田満氏（東京工業大学名誉教授/（株）環境デザイン研究所会長/日本建築学会元会長）

参加者：約80名

・特に混乱なく、順調に進行された。

4) 招待講演（環境系）招待講演

テーマ：「脱炭素社会におけるサステナブルな建築環境の設計理念」

講演者：吉野博氏（東北大学総長特命教授/東北大学名誉教授/秋田県立大学客員教授/前橋工科大学客員教授/日本建築学会元会長）

参加者：約80名

・特に混乱なく、順調に進行された。

5) 第37回東北建築賞表彰式・受賞記念講演会並びに第3回建築デザイン発表賞表彰式

参加者：約80名

・表彰式・講演会とも大きな混乱もなく、順調に進行された。
・建築デザイン発表賞表彰式は、順調に進行された。

6) 懇親会

参加者：70名（内1名は招待）

・前年度同様、一般料金（3,000円）、学生料金（2,000円）とした。

・参加者は、一般57名、学生13名、招待1名であった。

・特に混乱なく、順調に進行された。

7) 第37回東北建築賞受賞作品パネル展示・JIA秋田地域会作品展示会

参加者：2日間で延べ約100名

・会場へ事前に展示レイアウト（壁の移動など）が伝えられておらず、前日の会場設営時に多少作業のたつきがあった。

8) その他、全体的な報告事項・反省事項など

・いずれの企画も、大きな問題はなく、ほぼ時間通りに進行した。

・現地教員の負担が自ずと大きくなるので、負担軽減のために、現地教員の判断がなるべく要らない形で具体的に作業を依頼することが重要。

・今回は、発表会場や展示会場に必要な機材やパネル等を担当校である秋田県立大から運んでもらったため、多大な負担をかけてしまった。

・運営担当常議員と現地教員が、実際に顔を合わせて相談する場は必要。

(2) 東北支部女性会員の会 2017 活動報告

常議員（社会文化） 高木 理恵

イベント名：遠藤幹子+富永明日香+巖爽レクチャー&トーク

日時：2017年12月9日（土）15:00～17:00

会場：INTILAQ 東北イノベーションセンター

参加者：28名（うち女性18名）

レクチャー概要

司会：巖爽（宮城学院女子大学 教授）

講師：遠藤幹子（建築家/マザー・アーキテクチャ代表理事）

前半のレクチャーでは、遠藤氏からご自身の活動についてご紹介頂いた。遠藤氏は、大人から子どもまで「みんなが創造力を育める場づくり」をテーマに、子育て・文化・教育施設のデザインやワークショップを手がけている。「三重県総合博物館のこども体験展示室」「Camo-Cafe」「ザンビアのマタニティハウス」など、子育てを経験した女性ならではの視点が活かされた仕事が印象的であった。

トーク概要

司会：福屋粧子（東北工業大学 准教授）

ゲスト：遠藤幹子（前出）、富永明日香（富永明日香建築設計事務所／カンケイマルラボ）、巖爽（前出）

後半のトークでは、家庭を持ち子育てをしながら仕事を続けてきた3名のゲストによる仕事や働き方に関する対談が行われた。

若手女性会員から、子育てをしながら仕事を続けることに対する不安の声が寄せられた。これに対し、職場で子育てするための環境や体制を整えたり、日頃から人との繋がりを大切に協力を仰いだりといった環境づくりと、仕事効率とマルチタスク能力の向上が大事であるというアドバイスがあった。男性会員からは、女性ならではの考え方や空間の造り方が勉強になった、想像を超える女性の適応力や精神力、行動力に刺激を受けたなどの声が寄せられた。学生からも参考になった、発見があったという声が多く聞かれた。複数名の女子学生が個別にゲストに話を聞く場面もあり、自身の将来を考える良い機会となったようだ。

本イベントを通して、女性の仕事や働き方の可能性を見出し、建築分野の将来を担う学生、学生の育成者、様々な年代の実務者など、参加者全員で共有することができた。今後も女性参画に係る参考となる取り組みや課題の抽出に取り組んでいきたい。



レクチャー（左）とトーク（右）の様子

(3)2018年度日本建築学会大会（東北）に向けて

大会実行委員長 松本 真一

いよいよ本年度の日本建築学会大会（東北）が、東北大学の川内北キャンパスをメイン会場に、9月4日（火）から6日（木）の3日間の日程で開催される運びとなりました。東北支部ブロックでの開催は、2009年度（東北学院大学）以来、9年振りです。

この大会の準備に当たっては、小林淳大会委員長の下に、支部常議員や、大学関係者からなる準備委員会を昨年3月に、それを継承する現実行委員会を同年7月に組織し、かれこれ1年以上に亘り作業を続けて参りました。実行委員会は「オール東北支部」の体制ですが、コンピュータネットワークを活

用し、在仙の実行委員、さらには支部会員各位のお力添えも頂きながら、ようやくここまで漕ぎ着けたというのが現時点での感想です。

私どもが委員会において最も腐心し、議論を重ねたのは、年々増加を辿る講演発表数と会場の兼ね合い、付帯行事の立案と会場の兼ね合いです。まずは、会場のご提供と共催をお引き受けくださる東北大学に感謝します。また、実行委員会の内輪ではありますが、その段取りをお願いした本江幹事（東北大学）、行事立案をお願いした大沼幹事（東北工業大学）、講演会場の割り付けをお願いした堀幹事（東北工業大学）に御礼申し上げます。

大会のテーマについても議論を重ね、「記憶／未来」に決定しました。建築は時空の中で、「記憶」と「未来」を司る役目を担うものであることは私どもの共通認識ではありますが、東日本大震災後、初めての東北・仙台での開催となる事情を踏まえ、このことを見つめ直す大会としたいというのが、その趣旨です。

万全とはいかないかも知れませんが、大会開催に向けた物理的な準備は整いつつあります。後は、質の高い運営をと考えておりますが、それには支部会員の皆様の様々な面でのバックアップが必須です。是非とも、ご協力とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

第38回東北建築賞(作品賞)選考報告

選考委員長 小地沢 将之

1. 応募作品

- ・小規模建築物部門 9点
- ・一般建築物部門 26点
- ・その他の建設部門 1点
- 計 36点

2. 選考経過

- (1) 事前打ち合わせ会議 2017年9月15日（金）
13:30～15:00
於 日本建築学会東北支部会議室

選考委員長の選出、東北建築賞作品賞募集要項、選考委員会規則などを確認した上で、応募作品の数とその内訳を確認した。東北建築作品発表会の運営方法及び東北建築賞作品賞の選考基準などについて事前打ち合わせを行った。

- (2) 東北建築作品発表会 2017年10月7日（土）
9:30～17:30
於 せんだいメディアテーク7階スタジオシアター

第28回東北建築作品発表会において応募36作品の発表が行われた（内1作品辞退）限られた発表時間の中でそれぞれ

のコンセプトが紹介され、発表会は全体として滞りなく進められ終了した。時間厳守にご協力いただいた発表者、諸氏に敬意を表したい。

(3) 第1次審査会 2017年10月7日(土)

17:30~18:45

於 せんだいメディアテーク2階会議室

東北建築作品発表会終了後、会場を移し、現地審査を行う必要のある作品を選定することを目的として、第1次審査を行った。小規模建築物部門、一般建築物部門を別々に選考せず、全作品の中から半数程度に絞ることを目標に一人10票を投票することとなった。各委員が各々10票を投票した結果、得票数順に9票~2票までの15作品を第1次審査通過とした。なお、1番の作品について、間接的な関与がある委員については論評を差し控えることとし、また同委員は同作品には投票しないことを事前に申し合わせた。以上の結果、小規模建築物部門5作品、一般建築物部門10作品の合計15作品を第1次審査通過とした。

次に、現地審査は1作品につき2名以上の選考委員がこれに当たることを確認し、選定された15作品について現地審査の分担を決め、現地において確認すべき点を検討し、作品管理者との連絡を含めた現地審査の日程調整は事務局を通して行う事とした。

なお、1次審査の落選者へは200字程度の講評を選考委員分担で作成し、選考委員会として送付することを確認した。

(4) 現地審査

現地審査については11月と12月に選考委員で分担して現地審査が行われた。

(5) 第2次審査 2018年2月10日(土) 13:00~17:30

於：日本建築学会東北支部会議室

まず、小地沢委員長より全体の進め方の確認があった。その後、1作品ずつ現地審査担当委員からパワーポイントにより報告を受けた後、現地を確認した担当委員の印象等を確認した。作品についての質疑、審査委員の評価ポイント等についての討議を全審査員で行った。

投票の結果、小規模建築部門1作品、一般建築部門3作品を作品賞にすることが決まった。また一般建築部門1作品を特別賞にすることが決まった。

(6) 選考結果

作品賞 4作品

余白の杜

【所在地】岩手県北上市

【施主】芳野 竜太郎

【設計監理】acaあ 岸本 和彦

【施工】伸和ハウス株式会社

八戸市立西白山台小学校

【所在地】青森県八戸市西白山台 4-15-1

【施主】八戸市長 小林 眞

【設計監理】

建築:(株)日本設計、シーラカンズ K&H(株)

構造:(株)佐藤淳構造設計事務所

設備:(株)日本設計

【施工】

建築:寺下・高橋・東邦特定建設工事共同企業体

強電:創電・佐々木特定建設工事共同企業体

弱電:(株)山下電業

空調:北奥・壬生・テクノ特定建設工事共同企業体

給排水:テクノ・北奥特定建設工事共同企業体

宮古市崎山貝塚縄文の森公園複合施設

【所在地】岩手県宮古市崎山第1地割16番地1

【施主】宮古市長 山本 正徳

【設計監理】

意匠:アトリエノルド

構造:星野建築構造設計事務所

電気設備:振興設備設計

機械設備:セイナン設計事務所

展示:tecoLLC

【施工】

建築:佐々勇建設(株)

電気設備:岩館電気(株)宮古営業所

機械設備:(株)太平エンジニアリング宮古営業所

展示:(株)ムラヤマ

二本松市城山市民プール

【所在地】福島県二本松市郭内4丁目170番地

【施主】二本松市長 三保 恵一

【設計監理】(株)関・空間設計

総括/渡邊 宏

建築担当/江田 紳輔 八島 健介

構造担当/齊藤 善宏 高野 正(高野構造設計室)

電気担当/小阪 雄二 小野寺 彰(E.I.S 設備計画)

機械担当/小澤 洋一 佐藤 弘樹(E.I.S 設備計画)

外構担当/金子 幸也(カネコランドスケープ)

【施工】

建築:菅野・ヤマニ特定建設工事共同企業体

電気:ユアテック・下山電工特定建設工事共同企業体

機械:一工・オオナミ特定建設工事共同企業体

外構:(株)菅野土建

植栽:(有)渡松

特別賞 1作品

くりでんミュージアム

【所在地】 宮城県栗原市若柳字川北塚ノ根 17 番地 1

【施主】 栗原市長 千葉 健司

【設計監理】

意匠：(株)氏家建築設計事務所

総合監修：青山学院大学 高島 修一

文化財監修：山形大学 永井 康雄

構造：(株)日本システム設計

電気設備：(有)中央設備設計

機械設備：まがき設計

【施工】

建築：(株)小野良建設

建築（文化財）：小野寺建設(株)

電気設備：(株)栄進電気

機械設備：(株)加藤工機

展示：(株)丹青社

(7) 講評
作品賞

【余白の杜】

古くからの町割りを残した地方都市の市街地の一角における住宅です。住商が混在した周辺からの喧騒を断ち切るため、道路や隣地に対しては住戸の壁を回していますが、西側では縦格子越しに中庭の木々の色が映え、住宅内部の豊かさを予感させてくれます。特に評価されたのは、エントランス、玄関の間、中の間、奥の間へと、空間が雁行しながら奥行きを持っている点です。各居室間ではほどよく視線が通りながらも、それぞれの領域としては独立できており、まさに設計者の狙い通りの空間構成ができていました。各居室の使われ方に応じたスケール感の設定が適切であったことにも好感が持てました。2畳の間や畳の間は、軒の出などにおける設計上の努力もあった空間です。ひとたび座ると、時間が経つのを忘れさせてくれるような空間でしたが、目下の中庭との関係や、正対せずに構えている向かい側の居室との関係性で成立していました。

このように本作品は、まとまりのある構成を細かな設計によって実現している住宅であり、受賞にふさわしいと判断しました。

【八戸市立西白山台小学校】

この学校は、校舎へのアプローチが印象的で、木々が植樹されている北西角のエントランスゲートを通り、体育館棟、多目的ホール棟、職員室棟の曲線で構成された外壁の建築群の間を自然にすり抜けるように校庭へと進み、教室棟の3つの昇降口へと辿り着きます。

校舎は、大きな敷地の中に体育館棟、多目的ホール棟、特別教室棟や学年別教室棟など分棟型スタイルとり、その間に芝生張りの中庭があります。その構成は明快で機能的、さらに通風・採光はもちろん視認性や美観も良好です。更に子供達の積極的な活動を誘発する仕掛けが見え隠れします。また、屋根集熱システム、ペアガラスの建具、すべての棟が廊下に

より接続されなど、寒冷地の学校としての配慮もなされています。構造は、体育館を除き、地元産の木を使った木構造で、その架構のデザイン・ディテールは美しく、また、家具、什器なども構造材と同じ樹種で造られていることなど、全体として、色彩の統一感、木質感、施工性の高さ等、質の高い木質の学校空間を創出しています。

以上のことから、この学校は東北建築賞に相応しい作品として結論付けられます。

【宮古市崎山貝塚縄文の森公園複合施設】

本作品は、縄文文化を現代に生き生きと伝える建築であり、地域施設としても機能する複合建築です。彫りが深く無駄のない抑制のきいた外観は、周辺環境に落ち着きと風格を与え、地域の誇りを醸成するデザインだといえます。東日本大震災の影響から多大な調整や変更に見舞われたにもかかわらず、最善の策を提示しつつ施設全体をまとめあげた設計者の力量には相当の高い次元を感じさせます。館内の展示についても専門家との高度なコラボレーションが実現され、来館者の学びをより深化させる工夫を随所に凝らしています。縄文の時間を巡り学ぶ動線が、めりはりの利いた空間で導かれる計画となっており、展示物や展示内容と建築空間とが分かちがたく融合し互いに功を奏しています。本作品の管理者からは設計者に対する高い信頼と、培われ共有された建築をつくることの喜びが深く感じられ、施設全体に心地よい調和をもたらしていることを知ることができます。

以上から、本作品は東北建築作品賞としてふさわしい建築だと評価いたします。

【二本松市城山市民プール】

二本松城址に隣接する浅い谷地に沿うように建設された当施設は、鉄骨造の外殻に木造小屋組屋根の大空間である屋内水泳施設です。

高低差のある敷地の最上部に駐車場が灑され、そのレベル正面にあたる2階部エントランスから館内に入ると、ギャラリースペースのガラス越しにプール空間の樹形の鉄骨柱が印象的に目に留まります。1階に配されたプールへは、ギャラリーから螺旋階段を降りてアプローチしますが、視点の移動がプール空間のダイナミズムをより一層に強調します。木造小屋組の屋根に穿かれたスリット状のトップライトも印象的です。

寒冷地の屋内プールでは結露問題が一般的に発生しがちですが、本施設においては、プール空間の空気流動計画と積極的な空調によりそれを防いでいます。

以上のように本施設は、敷地を活かした空間構成とともに、木架構の可能性を拓き、水泳施設そして地域固有の建築屋内外環境上の課題を解決した完成度の高い建築であると評価され、東北建築賞作品賞に相応しいと審査されました。

特別賞

【くりでんミュージアム】

旧若柳駅舎とともに、『栗原地域と歩む鉄道文化拠点』をコンセプトとする「くりはら田園鉄道公園」に立地する「くりでんミュージアム」は、同鉄道廃線（2007）後の資産保全活用に向けた栗原市の検討やそれを支える市民活動を経て、2017年にオープンしました。町村合併（2005）後の栗原市都市計画マスタープラン（2008）や、岩手・宮城内陸地震（2008）・東日本大震災（2011）後の文化財ドクター派遣事業を踏まえた公園基本計画（2013）では、若柳中心地域の観光拠点、かつ市有形文化財指定の復興モニュメントと位置づけられています。

百年近い鉄道経営の関連資料の保存、機関車・工作機械類の動態保存、建設時図面の調査を踏まえた建物修繕・再生など、一連の「被災から保存再生・活用」を目指したまちづくりの成果といえます。新築資料館の設計や展示方法、都市計画道路による公園敷地の分断など、更なる検討改善の余地はあるものの、限られた市予算の中での出来る限りの試みです。そこで本審査会は、「くりでんミュージアム」を東北建築賞特別賞に相応しい作品と考えました。

第38回東北建築賞作品賞選考委員会

選考委員長	・小地沢将之	仙台高等専門学校総合工学科
委員	・最知 正芳	東北工業大学工学部建築学科
	・有川 智	東北工業大学工学部建築学科
	・高橋 典之	東北大学大学院工学研究科
	・増田 聡	東北大学大学院経済学研究科
	・竹内 泰	東北工業大学工学部建築学科
	・渡邊 浩文	東北工業大学工学部建築学科
	・鈴木 弘二	(株)鈴木弘人設計事務所
	・加藤 彰	(株)カトー建築設計事務所
	・山岸 吉弘	日本大学工学部建築学科
	・野村 俊一	東北大学大学院工学研究科

第38回東北建築賞(研究奨励賞)選考報告

選考委員長 増田 聡

本年度（2017年度）の研究奨励賞への応募論文は、構造分野において鈴木敦詞氏（東北大学）から提出された「交番繰り返し軸力を受けるH形鋼梁の連成座屈挙動」の1編であった。地震後においても建物の継続使用を実現するためにダンパーを付加する制振構造が普及し、そこでは座屈拘束ブレースが数多く採用されているものの、このようなブレースからの変動軸力作用下における梁の挙動や塑性変形能力には未解明な点も多い。

このような課題に対して本論文は、局部座屈後に連成座屈崩壊型となるH形鋼梁を対象として、制振ダンパーから作用する変動軸力を「交番繰り返し軸力」としてモデル化して連成座屈メカニズムの解明を試みた成果である。載荷

実験（13種類の試験体）及び数値解析（5種類のモデル）によって、H形鋼梁のフランジ幅・材長と「面外曲げ変形」の大きさや連成座屈崩壊型への移行性との関係が示されるとともに、既往の評価式によるH形鋼梁の保有性能評価において、細長比を追加的に考慮する必要性が明らかにされた。

以上の業績について、出席委員の評価と他委員による事前報告書の内容とを併せて集計した結果は、合格11名、不合格1名（1名不提出）であった。不合格意見では、関連研究を含めた一連の実験が外部主導（他大学）で進められた点に疑問が示されたが、応募者が筆頭著者である審査対象論文は、先行研究が扱っていない連成座屈崩壊という新たな事象の解析を目指したもので独自性も高い。また、次期改定の鋼構造設計指針への反映が期待できる知見であること、実験や解析の手法・結果の信頼性が高いことも確認されている。最終的には、出席委員の合議（及び委任状）の結果、東北建築賞の審査基準にある「今後の発展が期待できる論文」として合格とし、研究奨励賞に相応しい業績と判断した。

第38回東北建築賞(業績賞)選考報告

選考委員長 一條 佑介

本年度の東北建築賞について、1件の応募があり、2017年11月8日に選考委員会を開催した。当日の出席委員は3名で、欠席委員4名からは各々に審査報告書および委任状が提出された。業績説明書、候補推薦書、及び欠席委員から提出された審査報告書に基づき審査を行った。それらの結果を踏まえて同賞に推薦のあった「復興コミュニティ・デザイン」について、厳正な審査により結果は「否」となった。

過去の選考委員会での判断事例を鑑みると、業績賞には重要な「業績の蓄積」と「社会的貢献度」の二つの評価軸に加え、ある種の業績の「持続性」が求められる。

審査の過程において、社会貢献度が高いことは、選考委員共通の認識ではあるものの、申請者が提出した資料によれば、現時点では未だに復興の途上にあり、これまで及び今後の活動が「業績」として、いかなる復興コミュニティ・デザインにつながるかは、もう少し長期的視点で評価したいという意見が複数の委員から出された。

したがって、以上の点を総合的に判断した結果、「否」の判定となった。

しかしながら、震災後間もないタイミングにおいて、被災地の状況を見極めながら支援活動を開始し、復興の段階に応じた支援に取り組まれたこと、敬服の至りである。

東日本大震災により、被災した地域ではこれまでであった地域ごとのコミュニティが崩壊し、被災者は新しい生活を余儀なくされました。自宅を再建する者や避難していく者な

ど、それぞれが意志決定を行い、新しい環境でのコミュニティの再構築が必要となっている。

一方で、申請者が居住者の復興意欲の向上とコミュニティ形成に寄与することを目的に、入居開始当初から居住者の身近な環境改善と、その後の住民主導の復興住宅づくりにおいて支援を実施されておりますことは、社会的および学術的意義が高いものと考えられる。

本件について、今後の更なるご発展とご活躍をお祈りいたします。

第 28 回東北建築作品発表会報告

常議員 (社会文化) 野村 俊一

平成 29 年 10 月 7 日 (土) に、「第 28 回東北建築作品発表会」がせんだいメディアテーク 7F スタジオシアターにて行われた。本発表会は、「東北地方におけるすぐれた建築活動を広く人々に知っていただくとともに、それを記録し、設計者および建築関係者の相互の研鑽の場とし、もって東北地方の建築にとっての共通課題の探求にあたること」を目的としている。

本年度は小規模建築物部門 9 作品、一般建築部門 26 作品、その他の建築物部門 1 作品の計 36 作品の発表があった。発表会および作品賞に関する簡単な紹介の後、小地沢将之選考委員長より発表にあたっての注意事項が説明された。各発表では、1 作品につき発表 8 分・質疑応答 2 分の時間配分で、作品のコンセプトやアピールポイントに関するプレゼンテーションが行われ、活発な議論が交わされた。当会は設計者間の研鑽の場であるとともに、建築学科生には建築家のプレゼンテーションを学ぶ大変良い機会でもある。今後も大学などを通して積極的に周知を行い、より活気のある発表の場とするよう努めてゆきたい。

第 37 回東北建築賞表彰式及び展示会報告

常議員 (社会文化) 野村 俊一

6 月 17 日(土)・18 日(日)に、「みちのくの風 2017 秋田」の一環として、第 37 回東北建築賞表彰式および作品展示会が由利本荘市文化交流会館カダーレにて行われた。本年の受賞は作品賞 4 作品であった。

表彰に先立ち、岩田司作品賞選考委員長より選考経過報告と講評が行われ、続いて小林支部長より各受賞者に賞状・賞杯が贈呈された。表彰後、受賞者から受賞作品のプレゼンテーションが行われ、その後の懇親会では受賞者間の交流が図られた。本表彰式および展示会は、受賞者並びに作品応募者の方々をはじめ、選考委員長・選考委員・日

本建築家協会東北支部など関係各位の準備と協力により開催できたものである。関係各位にこの場を借りて深く感謝申し上げたい。

日本建築学会作品選集 2018 東北支部選考経過

東北支部選考部会長 五十嵐 太郎

本年度の応募総数は 24 作品であり、急増した昨年度とほぼ同数である。6 月 29 日に開催された一次審査会では、投票によって作品を絞り込み、得票数を確認しながら、討議によって現地審査の対象となる 14 作品を選んだ。これは昨年と同数である。特筆すべきは、このうち 9 作品が、震災関連でつくられた施設であることだ。昨年も宮城と福島の 6 作品がそうだったが、今年はこの二県に加え、青森や岩手からも震災関連のプロジェクトが入っている。その後、7 月と 8 月に現地審査を行い、8 月 21 日に支部の最終審査会を開催した。その結果、支部推薦となったのは、昨年と同じく 10 作品だった。内訳は、A ランク 4 作品、B ランク 4 作品として、S ランク 2 作品である。そして本部の選考では、A ランク 4 作品、B ランク 2 作品として、S ランク 2 作品が採択された。このうち 6 作品が震災関連であることは、復興に伴い、すぐれた建築が登場したことを意味している。

部会長 五十嵐太郎 (東北大学教授)
委員 飯田 善之 (設計工房らいんあーと代表取締役)
矢野 英裕 (空間芸術研究所所長)
三宅 諭 (岩手大学農学部共生環境過程准教授)
安田 直民 (SOY source 建築設計事務所取締役)
森山 修治 (日本大学教授)
加藤 一成 (加藤一成計画事務所代表取締役)

2017 年度日本建築学会設計競技 東北支部審査報告

課題：「地域の素材から立ち現れる建築」
東北支部審査会報告

審査委員長 山口 邦雄

応募総数 16 点に対し、1 審査員が 5 作品を上限に投票するものとし、獲得票数を基準にしつつ入選作品選定の協議を行った。

まず、3 票以上を獲得した「結びの籠」、「2200 万㎡の行方」、「野蒜美術館」、「玄石コアトリエ」に対し、詳細な協議を行った。その結果、記載順の 3 作品は、それぞれ地域性にあつた素材の着眼点が的確であり、図面のプレゼンテ

ーションも優秀で訴求力もあることから、入選作品とした。「玄石コアトリエ」は、設計コンセプトに対する建築形態にやや説得性の弱いことが指摘され、判断を留保した。次に、2票を獲得した他の4作品に「玄石コアトリエ」を加えて再度協議を行い、「廃棄の循環」と「みず、うつろい」の2作品を支部入選作品に加えることとした。

支部入選の5作品は、以下の通りである。

①「結びの籠」：蔓を素材とし、神社の「みくじかけ」という行為を空間化した作品で、地域の編み手が建築を作り上げていく点、人と建築が直接触れ合う空間である点が、素材を活かした新しい建築のあり方を提示しているように思える。

②「2200万㎡の行方 -福島第一原子力発電所アーカイブ化計画」：放射能で汚染された土やガレキ、原子炉建屋を「地域の素材」としてとらえ直し、300年をかけて記憶を後世に残すため建築し続けるユニークな提案である。

③「廃棄の循環 -廃棄されるホタテ貝殻が浮堤になるまでの話」：貝殻に支えられたテント状のやぐら空間が、海原を漂い見え隠れし、分断された海との信頼回復を感じさせられる提案である。

④「みず、うつろい」：溜池の歴史的背景が地域の財産であると捉え、季節ごとに変わる水位とそこに見えがくれする景色をいかに可視化するかをテーマにしたものであり、着眼点とその仕組みが評価された。

⑤「野蒜美術館 -「海」を「町」につなぐ建築」：防潮堤で分断された海と町を、広場のように開かれた美術館とガラス工房からなる建築で再びつなぐ提案であり、野蒜石や牡蠣殻の素材の活用にリアリティが感じられた。

委員長 山口邦雄（秋田県立大学）

委員 祝亜弥（仙台高等専門学校助教）

増田聡（東北大学教授）

増田豊文（東北文化学園大学教授）

不破正仁（東北工業大学講師）

2017年度東北支部研究報告会報告

常議員（学術教育） 一條 佑介

2017年度東北支部研究報告会「みちのくの風2017秋田」は2017年6月17日（土）・18日（日）の両日、由利本荘市文化交流会館カダレーを会場に開催された。

発表総数は建築デザイン発表会6題、計画系49題、構造系35題の合計90題であった。初日は5会場、2日目は4会場に分かれて、建築デザイン発表会・環境・計画・構造・材料施工の分野ごとに活発な意見交換が行われた。初日の午前には計画系招待講演「地域活性化を促す公共建築」と題して、仙田満氏（東京工業大学名誉教授／株式会社環境デザイン研究所会長／日本建築学会元会長）による講演が行わ

れた。同日夕方には、第37回東北建築賞表彰式並びに受賞記念講演会、建築デザイン発表会表彰式が行われた。2日目の午前には環境系招待講演「脱炭素社会におけるサステナブルな建築環境の設計理念」と題して吉野博氏（東北大学総長特命教授、東北大学名誉教授、秋田県立大学客員教授、前橋工科大学客員教授／日本建築学会元会長）による講演が行われた。両日を通じて第37回東北建築賞受賞作品パネル展示会を同市民活動室にて開催された。いずれの企画も多くの参加者を集め、盛況のうちに無事終了することができた。

報告会に参加された方々をはじめ、準備運営に関わった関係者各位には深く感謝申し上げたい。

2017年度

第3回日本建築学会東北支部建築デザイン発表会報告

建築デザイン教育部会 部長 櫻井 一弥

1. 応募講演

6講演

2. 選考経過

2-1 建築デザイン発表会

2016年6月18日（土） 10:00～10:40

於：由利本荘市文化交流会館カダレー

1階市民活動室（秋田県由利本荘市東町15）

応募6講演のポスター掲示、ならびに発表が行われた。限られた発表時間の中でそれぞれのコンセプトが紹介されるとともに、活発な質疑回答が行われた。発表会では、一部機器の不具合により発表者の順番が入れ替わる事態が生じたが、特に問題なく進められ終了した。時間厳守にご協力いただいた発表者各位、聴講者各位に感謝申し上げます。

2-2 選考委員会

2017年6月17日（土） 14:00～15:00

於：由利本荘市文化交流会館カダレー

2階会議室1・2

発表全体を聴講した建築デザイン教育部会の部会員5名（下記参照）で、建築デザイン発表賞にふさわしい講演を選出することとした。

内規に従い、計6件の講演より1つの講演を選出することを確認し、部会員相互で協議した。様々なタイプのプロジェクトがある中で、どのように賞を選出するか、議論が

2017年度日本建築学会東北支部総会報告

常議員（総務企画）野内 英治

難しかったが、最終的にはそれぞれのプロジェクトを多角的な視点から評価し、議論を通して決定することとした。

その際、内規に記載の通り、建築デザイン発表会を欠席する部会員には事前に講演梗概を開示し、賞にふさわしい候補を挙げてもらうこととしていたが、欠席の部会員からは特に候補が挙がらなかったため、選考委員会に出席の部会員の意見で決定した。

結果、次節に示す講演に第3回建築デザイン発表賞を授与することとした。

選考委員長：櫻井 一弥（建築デザイン教育部会長、東北学院大学）
選考委員：小地沢将之（建築デザイン教育部会幹事、仙台高等専門学校）
増田 豊文（東北文化学園大学）
馬渡 龍（八戸工業高等専門学校）
大沼 正寛（東北工業大学）

3. 選考結果

第3回日本建築学会東北支部建築デザイン発表賞 1点
「十和田実証住宅」
馬渡 龍、庭田 茂慧（敬称略）
（八戸工業高等専門学校）

4. 講評

「十和田実証住宅」

本講演は、青森県十和田市において実現したローコスト環境配慮型住宅の概要について紹介したものである。青森県の家庭において使用する灯油量は、我が国で最も多い北海道に次いで僅差であり、厳しい冬をしのぐためには膨大な暖房エネルギーを支出して暮らさなくてはならないという背景がある。本報告では、青森県の家庭エネルギー使用中5割近くを占める暖房エネルギーの抑制に有効な建物外皮の高性能化を図る一方、ローコスト化を達成するという、相反した達成目標を掲げた実証住宅の開発を試みている。その骨子としては、(1)合理的な建築計画、(2)適切な材料選定、(3)生産の合理化という3つの観点から上記の目標実現を試みると同時に、地域の工務店に馴染み深い木造軸組(在来)工法を採用することで、将来的に地域へ波及していくことを目論んでいる。

選考委員会では、本講演が実際に具体化されたプロジェクトの紹介であることだけでなく、目標設定の妥当性と実現された成果の完成度が高く評価された。また、研究機関におけるプロジェクトにありがちな、コストを考慮しないハイスペックな建物ではなく、地域の生産システムで十分成立する材料や仕様の選定をし、地域への普及を視野に入れている点、分かりやすいプレゼンテーションと質疑回答という点も高く評価され、今回の賞に選出された。

日時：2017年5月20日（土） 16:00～16:25

場所：仙台メディアテーク7階スタジオシアター

出席者：100名（委任状含む）

資料：

日本建築学会東北支部年報第37号

2017年度日本建築学会東北支部総会式次第

資料1-1：2017年3月31日現在 貸借対照表

資料1-2：2016年度 正味財産増減計算書内訳表

資料1-3：2016年度 正味財産増減計算書（予算との比較）

資料1-4：2016年度 同上（事業毎の決算比較）

資料2：2016年度 会計監査報告書

資料3-1：2017年度 正味財産増減予算書

資料3-2：2017年度 正味財産増減予算書内訳表

資料3-3：2017年度 正味財産増減予算書（事業毎の予算 昨年度と比較）

永井康雄議員による開会宣言の後、同常議員の司会により、以下の要領で総会が行われた。

1. 出席者数及び委任状の確認

出席者34名、委任状66通、合計100名の確認があり、東北支部会員（3月理事会報告人数）1,159名の1/30（38名）以上に当たるため、本総会が成立することが確認された。

2. 支部長挨拶

小林淳支部長による挨拶があり、今年度の総会が通常通りに開催できたこと、東北支部の現状などが報告された。

3. 議事録署名員の選出

出席者の中から議事録署名員として、本江正茂氏及び崎山俊雄氏が選出された。なお、事業報告・決算報告は5月の本部通常総会での報告事項となっており、支部総会では報告のみとし議長は設けないこととした。

4. 議事

東北支部規程により、以下（1）（2）の事項について報告された。

（1）2016年度事業及び会計に関する件

1）2016年度事業

高橋典之常議員より、支部年報19～20ページの「2016年度事業報告」に基づき、2016年度事業内容が報告された。

2）2016年度収支決算

志賀俊輔常議員より、資料1-1「貸借対照表」、資料1-2「正味財産増減計算書内訳表」、資料1-3「正味財産増減計

算書（予算との比較）」、資料1-4「正味財産増減計算書（事業毎の決算比較）」に基づき、2016年度収支決算が報告された。

3) 会計監査結果

佐藤大作支部監事より、資料2「会計監査報告書」の通り、2016年度の会計内容については疑義のない旨の会計監査結果が報告された。

(2) 2017年度事業及び会計に関する件

1) 2017年度事業計画（案）

山口邦雄常議員より、支部年報21～22ページの「2017年度事業計画（案）」に基づき、2017年度事業計画案が説明された。

2) 2017年度収支予算（案）

濱口雅義常議員より、資料3-1「正味財産増減予算書」、資料3-2「正味財産増減予算書内訳表」、資料3-3「正味財産増減予算書（事業毎の予算 昨年度と比較）」が説明された。

上記(1)(2)の報告内容について、特別な問題指摘などは無かった。

以上の議事終了の後、司会者により閉会が宣言され、2017年度日本建築学会東北支部総会を終了した。

研究部会活動報告

(1) 歴史・意匠部会

部会長 永井 康雄

今年度は前年度より引き続き「歴史的建築及び資料の保存・活用に関する研究」をテーマに据えて活動した。本委員会傘下の近現代建築史料全国調査特別WGに本部会からも委員が参加し、東北地方に現存する関連資料の所在調査を進めた。みちのくの風2017秋田では、歴史・意匠関連の発表は19題（前年度15題）であった。平成26～27年度に本部会が宮城県より受託して実施した「宮城県近代和風建築総合調査」の成果により、佐藤家住宅（大河原町）の主屋ほか9棟が国の登録有形文化財になった。保存関係では、藩政時代は塩釜神社の別当寺であった法蓮寺の旧書院・勝面楼（塩竈市）が解体の危機にあったが、歴史的価値が見直され保存する方向で進んでいる。

来年度開催される全国大会に関しては、本部会から研究テーマを提案した。その結果、研究協議会として「歴史的建築の担い手—新しい保存と活用—」、パネルディスカッションとして「雪国の暮らしを支えてきた多様な生活文化とまちづくり—雪国の暮らしを支えてきた多様な生活文化とまちづくり—」の2つのテーマが採択された。研究協議会は大会初日（9月4日）の午後、パネルディスカッ

ションは3日目（9月6日）の午後開催する予定である。歴史・意匠の懇親会は2日目（9月5日）の夜に青葉城本丸会館にて開催することとし、準備を進めている。また、大会関係の見学会については大会実行委員会（行事部会）からの要請に応じて連携することとした。

文化財保護法の改正や歴史的建築物の活用促進などが検討されており、今後はますます行政や建築関連団体との情報の共有・連携が重要な課題となっていくであろう。

(2) 建築計画部会

部会長 坂口 大洋

建築計画部会は研究者・設計者を中心に構成され、建築計画に関わる研究・実践の両面から課題の整理や実践的手法に取り組んでいます。東日本大震災の発災から7年が経過し、復興事業の進展に伴い、嵩上げ工事、インフラの整備、災害公営住宅を中心とした公共施設などの復旧・整備などが進むにつれて、被災地ごとに新たな様相と課題が浮かび上がってきています。特に実際の生活が始まるにつれて、コミュニティの再生や持続的な街づくりのあり方に関して課題も多く、部会メンバーがそれぞれのフィールドで調査研究・実践に関わっています。また、昨年4月に起きた熊本地震による被害調査や課題共有についても九州支部との情報交換や課題の共有、メンバーによる現地における合同調査なども積極的に行われています。更には、今後発生が指摘されている南海トラフ地震の被害が想定されている、徳島県、高知県、静岡県などの地域における地域防災、事前復興などの検討に必要な情報共有、資料提供なども行っています。平成29年度の建築計画部会は、部会としての企画・活動は行っていないもののコアメンバーによる復興事業の課題の共有、次年度の活動方針について意見交換を行いました。次年度、建築計画部会でも継続して東日本大震災における復興課題の共有を目指しながら、新たなフェーズに対応すべき検討を行う予定です。また各自治体、JIAなどの関連諸団体との連携も深めていきたいと思いを。

(3) 地方計画部会

部会長 増田 聡

東日本大震災の発生から7年が経過し、遅いと言われてきた復旧・復興事業も、その多くが完成・完了に向かっていく。被災地・東北で活動する計画系の支部部会として、多くの会員個人や所属組織は、震災復興計画の策定に始まり、復旧・復興事業の企画・設計・実施にも携わってきた。復興・創生期間の終了後に向けて、上記のような活動での経験や反省を踏まえて、復興まちづくりや住宅地整備の評価や、さらには計画制度・体系のあり方についての検討を

行って、何らかの政策提言に繋げていくことを考えるべき時期を迎えている。

また、やや唐突に中央から地方に降ろされた感の強い「自治体版まち・ひと・しごと創生総合戦略（人口ビジョン及び総合戦略）」でも、新たな地域づくり手法の提案・実施への契機と捉えることができる一方で、地域の実情とは乖離した政策手段の列挙に留まっている側面も否めない。特に、自治体発の政策企画・提案の弱さやコンサル任せの計画策定、住民参加・合意形成プロセスの形式（非実質）化、政策目標と KPI 設定のずれなど、従来から指摘されていた計画論的課題が残されている。また、基本構想・総合計画と震災復興計画の改定・見直しが進む途上で、地方創生総合戦略の同時策定を求められた自治体も多く、被災地では十分な時間やマンパワーを投入できていないケースが多い。

震災前から本部会には、建築計画、都市・地域計画、都市デザイン、コミュニティ・オーガニゼーションなどの「広義の計画系職能」に関わる研究者・実務家・活動家・行政担当者が参加してきた。彼らが集まって上述のようなテーマで討議のできる場として、本年度もみやぎボイス連絡協議会と協力してシンポジウムの開催にあたった。まず 2017 年 7 月には「みやぎボイス 2017：計画・制度とそこから零れ落ちるもの」を、次いで 12 月には「アフターボイス 2017：みやぎボイス 2017 から見えたこと」を開いた。さらに来年 9 月には日本建築学会大会が仙台で開かれるため、そのプレイベントとして「みやぎボイス 2018：次の社会のあり方につなげる試み（仮）」を企画中である。ご関心のある皆様には是非ご参加頂き、「復興のその後」や「次の社会」を考える機会として頂ければ幸いである。

(4) 構造部会

部会長 木村 祥裕

構造部会では、例年は建築学会東北支部構造部会と JSCA 東北支部の共催による講演会を企画しているが、本年度は私、木村が受賞した建築学会賞（論文）に対する講演「非構造部材による拘束効果・誘発作用を考慮した大空間鋼構造部材と液状化地盤における鋼管杭の座屈設計法」が 2/2 に開催され、大学教員、構造設計者や学生など約 100 名の出席者であった。3/7 には仙台近郊の大学・高専の教員・学生（参加者 24 名）による女川市街地及び女川庁舎現場見学会を実施した。竹中工務店の高橋伸一氏、藤田進氏のご厚意により実現したものである。東日本大震災の津波により甚大な被害を受けた女川町市街地の復興のシンボルとなる建物であり、標高 19m までの津波に対して避難できるように地盤を造成した大掛かりな工事であること、特定天井となる 200m² 以上のホールでは、天井下地を剛強な鉄骨で組むことで音響上の問題となる天井と外壁の間に必要なクリアランスを回避していること等の説明を受けた。学生から多くの質問があり、設計者及び施工者で活発な議論がな

された。また、6/17 に開催された JSCA 東北支部構造デザインコンペに協力し、東北各県の大学・高専の学生による 12 チームが参加した。このような見学会、講演会を今後も継続的に開催し、建築構造に対する産学官のネットワーク強化を図っていきたい。



庁舎内での構法の説明の様子

(5) 環境工学部会

部会長 小林 光

環境工学部会は、「東北地方の建築・都市の統合的な環境負荷削減のあり方に関する研究」を課題として、東北地方のニーズや部会委員の学術・技術的な興味に沿った活動を行っている。活動は年間 2 回から 3 回の部会開催と勉強会、市民向けあるいは専門技術者向けの研究会・見学会等の開催などである。環境工学者は比較的数が少なく、東北地方では空気調和・衛生工学会東北支部他の関連学協会との関係が密であり、イベントの共催・講演なども盛んである。また、部会内には大規模災害時の停電による空調・給排水衛生設備の凍結対策技術 WG、放射線環境 WG を設置し、支部の特色やニーズを反映した調査活動等にも取り組んでいる。今期は 2018 年大会に向け、研究協議会提案 WG、懇親会準備 WG にてそれぞれ準備を進めた。当部会より提案した環境工学部門の研究協議会企画「情報化がもたらす建築および環境分野の変革」が採択され、大会 2 日目の午後に開催を予定している。目覚ましい発展を遂げる IoT、AI 技術と建築、建築環境分野がどの様に向き合っていくのかを考える切っ掛けとなるべく、幅広い議論を期待している。

部会では、今後の活動で東北から何を発信できるか、また、部会員にとってどのようなメリットがあるかを考えた活動を展開したいと考えている。

(6) 材料部会

部会長 西脇 智哉

材料部会では、2016 年度に引き続き「サステナビリティ確保に向けた建築材料からの取り組み」をテーマとして活

動を行った。2017年度の具体的な活動としては、前年度から継続している各委員の所属機関を訪問しての研究テーマ紹介・施設見学を中心に、部会を3回開催して委員間の情報共有に注力した。本年度の開催実績は次の通りである。第1回部会は、「みちのくの風2017」にあわせて6月17日に秋田県立大学で開催した。板垣委員から秋田杉を用いた厚物合板・木造ラーメン・木造耐火構造について、また、石山委員から押出成形による埋設型枠、遷移帯の観察、未分級フライアッシュの利用などの研究紹介をいただいた。その後の実験室見学では、コンクリートおよび木材関係の各種試験機や3D スキャナなど多岐に亘る装置を紹介いただいた。第2回部会は、10月20日に八戸工業大学を会場に開催した。八戸工業大学の大学院生から2件の研究発表をいただいて意見交換を行った後、実験室では大型の人工気象室や実橋から切り出した部材などを紹介いただいた。また、共通試験としてコンクリートの凍結融解作用とスクレーピングなどの共通試験の可能性について議論した。この共通試験の可能性を確認するため、次回部会では気泡間隔の自動測定装置の実機デモを交えた開催とすることとした。第3回部会は、2018年3月16日に多賀城市の仙台コンクリート試験センター株式会社において開催した。上述の試験機デモを踏まえて、多岐に亘る試験方法について活発な意見交換を行うことができた。前年度より支部事務局の会議室に限らない会場での部会開催としており、活発な情報交換が行えたものと考えている。次年度で概ねの機関を巡ることになるため、継続することにより活発な意見交換と事業の活性化を図っていく予定である。

(7) 施工部会

部会長 飯藤 將之

施工部会では、平成29年度、「建築物を長寿命化させるための建築施工技術に関する調査」をテーマとして研究補助費を受けて活動した。定例会では、各委員が所属する企業における取り組みの紹介(5月)、長寿命化施工を実施している建設作業所の見学(10月)、歴史的建造物を再生させて長寿命化させる技術に関する講演(7月)、余寿命予測のための劣化診断法と路線バスや自動車を用いた劣化診断法の開発研究に関する講演(12月、土木分野)、長寿命化に関連して省力化施工を目指した BIM・IT の活用に関する講演(2月)を行った。おおくりで長寿命化と言っても、個別には劣化対策、耐震性向、省エネルギー、環境共生、機能変更および追加、次世代対応など、様々な内容がある。そのため、委員が日常の業務で係わることが稀な項目を採り上げて、その道の専門家を招いた講演をもとに調査の内容を深めた。定例会での活動をもとに報告書をまとめた。

(8) 建築デザイン教育部会

部会長 櫻井 一弥

2017年度は、6月の「みちのくの風」に合わせて開催した「第3回建築デザイン発表会」の開催を大きな事業の一つとした。建築デザイン発表会の終了後に、部会員による「第3回建築デザイン発表賞」の選考を行った。また、もう一つの大きな事業として、2014年度より JIA（日本建築家協会）東北支部との共催で実施している「建築学生テクニカルセミナー2017」を本年度も実施し、実りある成果が得られた。

第3回建築デザイン発表会は、2017年6月17日(土)13:00~14:00に、「みちのくの風2017」内の事業として由利本荘市文化交流会館カダレーにて行われた。応募6講演のポスター掲示と発表があったが、デザイン発表会らしく、様々な視点からまとめられたバラエティに富んだ内容であった。

建築学生テクニカルセミナー2017は、2017年12月7日(木)14:00~16:30に、せんだいメディアテーク1階オープンスクエアで行われ、学生約50名、一般市民約20名、建築関係者約30名の計約100名が参加した。本部会からも数名の部会員が参加し、学生の作品に対する学内評価をコメントするなど、重要な役割を担って戴いた。

上記2つの大きな事業に加えて、第21回 JIA 東北建築学生賞に対する本部会からの審査員派遣を行った。実施日時は2017年10月27日(金)12:30~17:50、実施場所はせんだいメディアテーク1階オープンスクエアである。2014年度より実施しているものであるが、建築実務界と教育機関との重要な交流の場として機能していると考えられる。

2018年度は今年度と同様、建築デザイン発表会の開催等を大きな柱として事業を進めていく予定である。

(9) 災害調査連絡会

部会長 佐藤 健

災害調査連絡会では、地震などの自然災害が発生した際に、迅速な被害調査、及び、復興支援活動を実施するための組織と連絡体制の整備に継続して取り組んでいる。委員長(佐藤健)のもと、支部内の8研究部会(構造、材料、建築計画、地方計画、歴史意匠、施工、環境工学、建築デザイン教育)の各部会長及び部会推薦委員からなる連絡・調整幹事会を設置し、本部災害委員会・東北支部代表委員(秋田県立大・板垣直行教授)と連携しながら、災害発生時の情報発信と共有、被害調査の調整などを行っている。

2017年度は、2016年4月14日、16日に発生した熊本地震から1年目にあたる2017年4月15日~16日に防災学術連携体ほか主催した「熊本地震・1周年報告会および被災地の復興視察ツアー」に部会長が出席した。また、2018

年2月6日に台湾の花蓮付近で発生した地震の現地調査について、本部災害委員会、東北支部代表委員の板垣教授、連絡・調整委員会でメール審議し、東北支部としての調査団を組織することはしなかったが、東北大学災害科学国際研究所（五十子幸樹教授、村尾修教授、大野晋准教授）と連携し、調査計画の打ち合わせや、調査結果の情報共有等を行った。

支所だより

青森支所

青森支所長 盛 勝昭

2017年度の青森支所の活動状況について報告いたします。

5月26日に第1回幹事会を開催し、講習会等の年間事業計画および収支予算等を議決・承認しました。その後も打ち合わせを重ね、事業の実施に向けて細部を検討いたしました。

7月6日に開催した全員協議会では、幹事会で議決された事業計画を報告、出席者全員に協力をお願いするとともに、親睦を深めました。

10月7日、8日に、2017年度の『東北建築賞受賞作品展示会』が、八戸工業大学を会場に開催され好評を博しました。

2月23日には、松浦一級建築設計事務所代表の松浦良博様を講師に迎え「イタリア国際デザインコンペA'design award and competition.受賞に至る経緯について。」と題し、一昨年5月に世界最大規模といわれるイタリア国際デザインコンペで銀賞を受賞された「下北の健康住宅」と銅賞を受賞された「i-house」の2作品の受賞にいたる経緯および受賞式や祝賀会での様子などをご紹介いただきました。さらに、地元のヒバや杉などを活用し、下北の自然環境を活かした自然と共存する建築をめざす日頃の活動など講演していただきました。

今年度は6月16日（土）に「みちのくの風2018 青森」が青森市のアスパムにおいて開催されます。当支所では支部と連携し事業の成功に努めて参りますので、是非、青森にお越しくださるようお願いいたします。

青森支所では、今後も地域にねぎした活動で貢献してま



いりたいと思います。

秋田支所

秋田支所長 荻谷 哲朗

秋田支所主催の下、第46回秋田県工業系高校生徒による建築設計作品コンクールが、秋田のアルヴェにて行われ、審査・各賞授与が無事終了しました。本年度の特徴といたしましては、今回の募集の前には、図面の表現方法として、手書きによる直接描画とコンピューターによるCAD描画の是非の討論がありました。蓋を開けてみると、両者の主張の正当性を問うような、各種プレゼンテーションが行われ、審査員の眼も試されることとなりました。その結果、レンダリングの手法の優位性の問題ではなく、当事者たちの主張あるいはコンセプトが、いかによく表現されるかと言うことこそが争点であり、表現手法の優位性の違いだけでは現れないような、若者たちのプレゼンテーションが行われました。審査は、そうした極めて現代的な未来を見据えた課題を踏まえた上で行われ、結果としては、多様性のある受賞結果となりました。今後、教育現場でも、今回の結果を踏まえた上で、未来の建築を構想して行くことが期待されます。関係する皆さまの、更なるご思慮、ご配慮が、今後の秋田県の建築界に明るい未来を形成して行くことを期待しつつ、ご報告とさせていただきます。



表彰式写真

岩手支所

岩手支所長 廣瀬 公亮

岩手支所では、平成29年9月21日（木）に「空調システムで室内の空気をきれいに～省エネで暖かく～」と題して岩手県空調機メーカー会と共催で講演会と第37回東北建築賞受賞パネル展示会を開催いたしました。講演会では、狩野徹氏（岩手県立大学社会福祉部学部長）と、前真之氏

(東京大学大学院准教授)を迎え、鹿野氏からは、「住宅の在宅入浴環境について」、前氏からは、「敷地と気候に馴染むエコハウス設計 快適と省エネのベストバランスとは」についてご講演いただきました。講演は、今後の新築やリノベーション、省エネ等にも大変に役立つ内容で110名の参加となりました。

また、平成29年11月22日(水)には、「第41回盛岡市景観シンポジウム」が盛岡市主催のもと開催され、当支所などが後援いたしました。今回のシンポジウムでは、こちらからよりよい盛岡の魅力あふれる景観を形成するため、「女性の視点からの景観街づくり～盛岡の街並みのこれまでとこれから～」と題し、基調講演では、浅野明子氏(株モリノバ 代表取締役)を迎え「盛岡のひととまちの出会いが生まれる場所づくりを目指して」についてご講演、またパネルディスカッションでは、「女性の視点からの景観街づくり」をテーマに身近な生活景観をはじめ、盛岡の街並みのこれまでとこれからの景観について意見が交わされました。まとめとして、ただ景観を守るということではなく、今後どのように手を加えていくべきなのか、それが将来どう評価されるかという視点が重要であるとの意見が提起されました。

岩手支所では今後も、地域で開催される建築関係の活動等に対し支援を行うとともに、機会を捉えて地域社会の交流を図る諸事業の実施に努めてまいります。



セミナー



東北作品展示会



シンポジウム

山形支所

山形支所長 相羽 康郎

寒河江市庁舎建設50周年記念事業を寒河江市との共催で実施した。

市立図書館の会議室で11月4日(土)シンポジウム(参加者約50名)と同玄関ホールギャラリーで11月24日～11月5日に関連資料展を行った。シンポ当日は市長のご挨拶に続き、3名からご講演後、相羽司会で討論を行った。

亀井正弘氏(黒川紀章建築都市設計事務所):市庁舎がピロティで支えられシンボルとなり、1階レベル(議会あり)が増築される時間的建築で、2階ペDESTリアンデッキは道と自然と自然の胎内化を意図している。耐震工事で免震が実現した。

山本大輔氏(島根県庁):安田臣(建設省後年独立)と菊竹清訓の設計した公共建築が県庁舎周囲に存在し、予算の少なくて済む耐震補強が景観に配慮し実施された。H28年に、県公共施設の総合管理計画を策定した。よい公共施設を使い続けることが大切である。

相田和規氏(長岡市役所):中心街は賑わっていたがH10にはシャッター街。ビルを借り切り社会実験でうまくいったものをアオーレ長岡へ導入した。休みなしのシフト制で土日も役所が開く。アオーレの稼働率は高く、普段も通り土間に椅子テーブルを置き学習塾生徒らが集まっている。

討論では、アオーレの分庁舎方式が当初からで、コストはかかるが食堂は作るなどされ、ワンストップサービスも総窓口で可能である

こと、寒河江市庁舎の免震構法の判断経緯等が説明された。

また市庁舎等の公共施設をイベント等も活用して使うことの大切さ、アオーレの高稼働率の理由として、企画運営は市民に任せ、市役所OB等の2つのNPO法人(市庁舎同居)

が市内の多くのNPO法人をつないでいること、その他、賑やかな公共の場でのテロ対策が今後の課題、復元と復原(時を経た時点がオリジナル)の見解の揺れ、出雲大社庁舎の雨漏りが民間管理者の愛着をわかせられなかった残念な例となったこと等が述べられた。

福島支所

福島支所長 斎藤 祐一

2017年度の福島支所の活動状況について報告いたします。今年度は、『福島県歴史的建造物保全活用促進協議会』の活動や建築関係団体との『建築士事務所キャンペーン』の共催、『福島県建築系高校卒業設計優秀作品表彰式』への協賛、『第37回東北建築賞受賞作品展示会』の実施を中心



寒河江市と共催の寒河江市庁舎建設50周年記念事業ポスター



市立図書館ホールギャラリーの資料展示会



市庁舎を活用したまちづくりについてアイデアを出し合うパネリストら
＝寒河江市立図書館
地元新聞で取り上げられた記事の写真

に活動しました。

『福島県歴史的建造物保全活用促進協議会』では、歴史的建造物を保全・活用し、本県の建築文化を育み、美しい景観等を実現するため、年間計13回の講習会を実施し、歴史的建造物の保全活用の専門家(ヘリテージマネージャー)の育成、派遣、活用等を行いました。

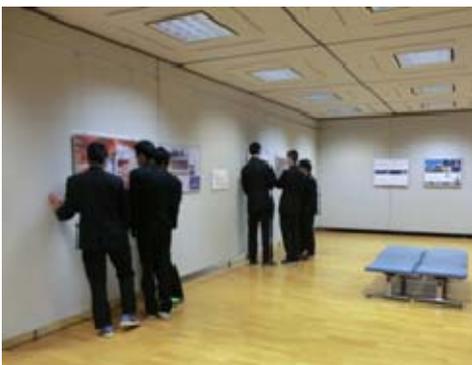
『建築士事務所キャンペーン』は、12月2日にいわき市小名浜の「アクアマリンふくしま」で開催しました。

今回は、建築関係者だけでなく、一般の方々も含め約150人に参加いただき、普段見ることのできない建築物の管理スペースの見学や基調講演・座談会の聴講など建築に触れる機会を多くの方と共有できました。

座談会では、建築がその地域のまちづくりや活性化に大きく寄与することや東日本大震災の津波被害から復旧したアクアマリンの取組など貴重な話もあり、有意義なイベントとなりました。



【建築士事務所キャンペーン】



【東北建築賞受賞作品展】

2月22日に福島市で実施した『福島県建築系高校卒業設計優秀作品表彰式』では、第10回記念として特別賞を選定する審査を行いました。

『第37回東北建築賞受賞作品展』については、2月20日から22日までの3日間、郡山市にて、「JIA東北支部福島地域会」及び「日本大学工学部卒業設計作品展」と合同で開催しました。学生の想像力溢れる意欲的な作品から、第一線で活躍する建築家の作品まで、数多くの建築作品が並び、見応えのある作品展となりました。

今後も学術的な研究等を福島の復興や地方創生に向けて広く還元し、発信するため、地域の教育機関や関係団体と連携・協働しながら、地域に根差した支所活動や事業の更なる充実に努めてまいります。

支部役員会から

常議員(総務企画) 不破 正仁

支部役員会は、支部長と14名の常議員で構成される。常議員は、会務を処理するため、支部役員会において会務を審議し、議決するものと定められており、東北支部全体の運営を担っている。支部役員会は、年2回以上支部長が招集することとされているが、基本的には隔月程度の頻度で開催されている。

本年度は、支部役員会が5月、7月、9月、11月、2月、(本稿執筆時点では実施されていないが3月も開催予定)に開催され、粛々と会務の処理を行うことができた。また、支部役員会の開催に際しては、今年度より導入したWEBEXを介しての参加も可能としており、移動時間削減に伴う出席者の増加と、旅費削減に効果を上げている。

さらに、恒例となっている支部研究報告会を核とした「みちのくの風」の運営でも中心的な役割を果たしている。本年度は「みちのくの風2017秋田」と題して、第80回東北支部研究報告会と併せて第3回東北支部建築デザイン発表会が開催され、6月17日(土)・18日(日)を会期に、由利本荘市文化交流会館カダレーを会場に開催された。17日は、仙田満氏(東京工業大学名誉教授/株)環境デザイン研究所会長/日本建築学会元会長)をお招きし、「地域活性化を促す公共建築」と題してご講演をいただいた。さらに18日には、吉野博氏(東北大学総長特命教授/東北大学名誉教授/秋田県立大学客員教授/前橋工科大学客員教授/日本建築学会元会長)をお招きし、「脱炭素社会におけるサステナブルな建築環境の設計理念」と題してご講演をいただいた。

この他、支部長と総務・企画担当常議員は4月に総務会を開き新年度の準備に当たったほか、9月には支部長・総務企画担当常議員も出席して支所長会議を実施し、みちのくの風、日本建築学会文化賞の推薦、次年度からの支所交付金の取り扱いについて報告・審議と意見交換を行った。2017年度の支部役員会で取り上げられた主な議事を以下に示す。

■4月総務会(2017年4月21日開催)

【報告事項】理事会報告、会計報告、決算報告、代議員選挙結果、常議員選挙結果・役割分担、支部研・デザイン発表会論文募集の報告と懸案事項、建築年報への事業報告、支部年報編集報告【審議事項】総会資料(司会進行・懇親会)、みちのくの風2017秋田、後援依頼、支部監事につい

て、2017年度災害委員会支部企画について

■5月支部役員会（2017年5月20日開催）

[新旧役員の引継ぎ] [報告事項]理事会報告、総会進行確認、みちのくの風2017秋田・業務確認、会計報告、建築文化週間事業報告、大会の進捗状況 [審議事項]支部長代行者、支部のHPについて、講演依頼

■7月支部役員会（2017年7月21日開催）

[報告事項]理事会報告、会計報告、総会報告、みちのくの風2017秋田開催報告、作品選集2018応募作品と支部選考部会審査経過、本会設計競技支部審査報告、後援依頼承諾、災害委員会支部企画申請、大会の進捗状況、事務局員の雇用延長について [審議事項]みちのくの風2018、本会文化賞推薦依頼、本会教育賞推薦依頼、本会大賞推薦依頼 [その他]オンラインストレージ利用方法

■9月支部役員会（2017年9月28日開催）

[報告事項]理事会報告、会計報告、作品選集2018支部審査報告、19期代議員および次期支部長・支部役員選挙、東北建築賞応募報告および東北建築作品発表会、後援依頼、支所の余剰金、設計競技支部入選、JASS6講習会開催 [審議事項]みちのくの風2018青森、支部総会日程、東北建築賞作品賞選考委員会内規修正案、選挙管理委員会の設置、建築学会女性会員の会

■12月支部役員会（2017年12月4日開催）

[報告事項]理事会報告、会計報告、代議員・支部長・常議員候補者届出報告、東北建築作品発表会、東北建築賞研究奨励賞選考委員会、東北建築賞業績賞選考委員会、後援依頼承諾、作品選集東北支部部会次期委員選出報告、2018年度設計競技支部審査員選出報告、建築学会女性会員の会進捗報告、支部研・デザイン発表会申込受付フォームの進捗状況、支所余剰金の報告ならびに2017年度概算払いについて [審議事項]2018年度支部総会日程・会場・担当・付随行事、みちのくの風2018青森、

2018年度大会予算案、2018年度支部予算案、支部研究報告集会論文募集スケジュール・募集要項、建築デザイン発表会募集要項、支部年報発刊、支部研究補助費申請、全国大学高専卒業設計展示会会場確認、事務局の雇用について

■2月支部役員会（2018年2月15日開催）

[報告事項]理事会報告、会計報告、支部研究補助費申請報告、東北建築賞作品賞選考報告、秋田支所からの賞状贈呈依頼承認報告、2018年度全国・大学高専卒業設計展示会の日程報告、建築学会女性会員の会開催報告、JASS6鉄骨

工事改定講習会の開催報告、支部年報38号原稿執筆依頼 [審議事項]みちのくの風2018青森、東北建築賞表書式、東北建築賞要項確認、2018年度親と子の建築講座と建築文化事業について

■3月支部役員会（2018年3月28日開催）

[報告事項]理事会報告、会計報告、代議員選挙結果報告、支部研・デザイン発表会論文提出報告 [審議事項]支部総会、研究委員会規則、正会員（法人）賛助会員の増強

みちのくの風2018青森、みちのくの風2019、後援依頼他

2018年度 支部役員名簿

東北支部常議員の構成と役割分担

役割	2017年度 (2017年6月~2018年5月)	2018年度 (2018年6月~2019年5月)
支部長	小林 淳 (秋田県立大)	石川 善美 (東北工大)
総務企画	不破 正仁 (東北工大) 野内 英治 (日大) 山口 邦雄 (秋田県立大) 本江 正茂 (東北大) 崎山 俊雄 (東北学院大)	本江 正茂 (東北大) 崎山 俊雄 (東北学院大) 畑中 友 (東北工大) 山岸 吉弘 (日大) 橋詰 豊 (八戸工大)
社会文化	安田 直民 (SOY source建築設計事務所) 野村 俊一 (東北大) 高木 理恵 (東工大)	高木 理恵 (東北工大) 飛ヶ谷潤一郎 (東北大) 齋藤 和哉 (齋藤和哉建築設計事務所)
学術教育	一條 佑介 (東北文化学園大) 堀川 真之 (日大)	堀川 真之 (日大) 二科 妃里 (東北文化学園大)
会計会員	大橋 佳子 (仙台市) 町野 東彦 (JR 東日本)	大橋 佳子 (仙台市) 町野 東彦 (JR 東日本)
図書情報	小藤 一輝 (八戸工大) 小林 仁 (仙台高専)	小林 仁 (仙台高専) 浅野 耕一 (秋田県立大)
事務局	伊藤 章子 瀧 美雪 藤村 陽子	伊藤 章子

研究部会長

研究部会	部会長
構造部会	木村 祥裕 (東北大学教授)
材料部会	西脇 智哉 (東北大学准教授)
建築計画部会	坂口 大洋 (仙台高等専門学校教授)
地方計画部会	小地沢将之 (仙台高等専門学校准教授)
歴史意匠部会	永井 康雄 (山形大学教授)
施工部会	飯藤 将之 (仙台高等専門学校教授)
環境工学部会	小林 光 (東北大学准教授)
建築デザイン教育部会	櫻井 一弥 (東北学院大学教授)
災害調査連絡会	佐藤 健 (東北大学教授)

東北支部会員数 (2018年4月1日現在)

名誉会員	3名
終身会員	56名
正会員 (個人)	1,065名
正会員 (法人)	34法人
準会員	36名
賛助会員	7法人

東北支部監事

2016年6月~2018年5月

志賀 俊輔 (仙台市)
高橋 典之 (東北大)

東北支部選出代議員

任期	代議員
2017年4月 ~ 2019年3月	千葉 正裕 (日本大学教授) 遠藤 匡彦 (東日本旅客鉄道㈱東北工事事務所 担当課長) 村尾 修 (東北大学教授)
2018年4月 ~ 2020年3月	有川 智 (東北工業大学教授) 速水 清孝 (日本大学教授)

支所長

支所	支所長
青森支所	盛 勝昭 (㈱盛興業社 代表取締役)
秋田支所	荻谷 哲朗 (秋田県立大学建築環境システム学科教授)
岩手支所	伊藤 勇喜 (岩手県県土整備部建築住宅課総括課長)
山形支所	相羽 康郎 (東北芸術工科大学教授)
福島支所	新関 永 (福島県土木部建築住宅課課長)

2017 年度事業報告

〈事務の部〉

総 会	1. 2016 年度事業報告・決算報告・会計監査報告 2. 2017 年度事業計画・予算案	2017 年 5 月 20 日 せんだいメディアテーク
諸 会 合	総会 (1)、支部役員会 (8)、総務会 (1)、支所長会議 (1)、東北建築賞 作品賞選考委員会 (3)、東北建築賞研究奨励賞選考委員会 (1)、 東北建築賞業績賞選考委員会 (1) 設計競技支部審査会 (1)、選挙管理委 員会 (1)、作品選集支部選考部会 (2) 大会準備会 (3)、大会実行委員会 部会連絡会 (6) その他部会など開催	() は回数
代議員半数改選	(留任) 浅里和茂、五十子幸樹、西田哲也 (新任) 遠藤国彦、千葉正裕、村尾 修	2016 年 4 月～2018 年 3 月 2017 年 4 月～2019 年 3 月
支部長改選	(留任) 小林 淳	2016 年 6 月～2018 年 5 月
常議員半数改選	(退任) 永井康雄、高橋典之、福屋粧子、齋藤俊克、志賀俊輔 濱口雅義、藤田智巳 (留任) 山口邦雄、不破正仁、野内英治、安田直民、野村俊一 一條佑介、小藤一樹 (新任) 大橋佳子、小林 仁、崎山俊雄、高木理恵、堀川真之、 町野東彦、本江正茂	2015 年 6 月～2017 年 5 月 2016 年 6 月～2018 年 5 月 2017 年 6 月～2019 年 5 月
企画運営委員	なし	
支 部 監 事	高橋典之、志賀俊輔	2017 年 6 月～2018 年 5 月

〈支部事業〉

研究委員会	[部会名] [部会長] [テーマ名] 構 造 : 木村祥裕 構造技術における新しい試み 材 料 : 西脇智哉 サステナビリティ確保に向けた建築材料からの取り組み 建築計画 : 坂口大洋 縮退社会における建築計画の課題抽出と実践化 地方計画 : 増田 聡 ・東北のまちとまちづくり ・防災まちづくり ・環境問題と中心市街地の再編 歴史意匠 : 永井康雄 歴史的建築及び資料の保存・活用に関する研究 環境工学 : 小林 光 東北地方の建築・都市の統合的な環境負荷削減のあり方に関する研究 施 工 : 飯藤将之 建築分野における最新技術とその施工法について 建築デザイン教育 : 櫻井一弥 東北地方の建築デザイン教育の質的向上に関する研究 災害調査連絡会 : 佐藤 健 東北地域における地震及び各種災害が発生した際の調査、広報に関わる 連絡や調整および関連事業の企画立案と支援	
本部・支部研究 助成金による 研究	・環境に配慮し建築物を長寿命化させる建築施工技術に関する調査 施工部会 (研究代表者 飯藤将之)	2017 年 4 月～2018 年 3 月
支部研究報告会	2017 年度 第 80 回東北支部研究報告会 研究報告集第 80 号計画系・構造系刊行 発表題目 84 題	2017 年 6 月 17 日～18 日 由利本荘市文化交流会館カダ ーレ
デザイン 発表会	2017 年度 第 3 回東北支部デザイン発表会 発表題数 7 題	2017 年 6 月 17 日 由利本荘市文化交流会館カダ ーレ

支部主催 支部共催 イベント	<p>1. 支部主催</p> <p>1) 建築教育文化事業</p> <p>2) 第28回「東北建築作品発表会」の開催（仙台市）</p> <p>3) 第38回「東北建築賞」の選考</p> <p>4) みちのくの風2017秋田</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支部研究報告会と招待講演会 ・第37回東北建築賞表彰式 ・第3回建築デザイン賞表彰式 ・第37回東北建築賞受賞作品展示会 <p>5) 建築学会女性会員の会</p> <p>遠藤幹子+富永明日香+巖爽レクチャー&トーク</p> <p>2. 支部共催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第37回東北建築賞作品展示会 <p>仙台市、盛岡市、由利本荘市、八戸市、郡山市</p>	<p>2017年10月1日</p> <p>せんだいメディアテーク</p> <p>2016年6月17日～18日</p> <p>由利本荘市文化交流会館カダーレ</p> <p>2017年12月9日</p> <p>INTILAQ 東北イノベーションセンター</p> <p>2017年6月～2018年2月</p>
研究部会主催	<p>1. シンポジウム</p> <p>2. その他、部会ごとに講習会・研究会・見学会などを適宜開催</p>	
表彰	<p>1. 第37回東北建築賞 作品賞部門 作品賞4点</p> <p>2. 日本建築学会設計競技支部入選者表彰代表者2名</p> <p>3. 日本建築学会功労者表彰 個人会員3名、法人会員なし 賛助会員なし</p> <p>4. 日本建築学会終身会員の紹介5名</p>	<p>2017年6月17日</p> <p>由利本荘市文化交流会館カダーレ</p> <p>2017年5月20日</p> <p>せんだいメディアテーク</p>
支所活動	<p>青森支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員協議会 ・第37回東北建築賞作品展示会：八戸市 ・講演会 「イタリア国際デザインコンペ A' design award and competition.」受賞に至る経緯について <p>秋田支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第37回東北建築賞作品展示会：由利本荘市 ・第46回秋田県工業系高校生による建築設計作品コンクール <p>岩手支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第37回東北建築賞作品展示会：盛岡市 <p>山形支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寒河江市庁舎建設50周年記念シンポジウム <p>福島支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第37東北建築賞作品展示会：郡山市 	<p>2017年7月</p> <p>2017年10月7日・8日</p> <p>2018年2月23日</p> <p>2017年7月15日～18日</p> <p>2018年2月11日</p> <p>2017年9月21日</p> <p>2017年11月4日</p> <p>2018年2月20日～22日</p>
刊行活動	<p>支部年報第37号発刊</p> <p>東北支部研究報告集第80号計画系・構造系ならびに第3回建築デザイン発表会梗概集（CD-ROM）発刊</p> <p>東北建築作品集（第28号）発行</p>	<p>2017年5月20日</p> <p>2017年6月17日</p> <p>2017年10月1日</p>

〈支部共通事業〉

講習会	<p>2017年度日本建築学会支部共通事業「建築工事標準仕様書 JASS6 鉄骨工事ならびに関連指針」改定講習会</p>	<p>2018年1月23日</p> <p>ハーネル仙台</p> <p>参加者：148名</p>
展示会	<p>全国・大学高専卒業設計展示会</p> <p>山形市、由利本荘市、仙台市、郡山市、八戸市</p>	<p>2017年7月～2017年11月</p>
審査会	<ul style="list-style-type: none"> ・2017年度支部共通 日本建築学会設計競技 テーマ：「地域の素材から立ち現れる建築」 ・日本建築学会「作品選集2018」東北支部選考部会 	<p>2017年7月12日</p> <p>支部事務所会議室</p> <p>2017年6月～9月</p> <p>支部事務所会議室</p>

一般社団法人 日本建築学会東北支部	自 2018 年 4 月 1 日
2018 年度事業計画（案）	至 2019 年 3 月 31 日

〈事務の部〉

総 会	1. 2017 年度事業報告・決算報告・会計監査報告 2. 2018 年度事業計画・予算案	2018 年 5 月 12 日 せんだいメディアテーク
諸 会 合	総会 (1)、支部役員会 (8)、総務会 (2)、支所長会議 (1)、東北建築賞 作品賞選考委員会 (3)、東北建築賞研究奨励賞選考委員会 (1)、東北建 築賞業績賞選考委員会 (1)、設計競技支部審査会 (1)、選挙管理委員会 (2)、作品選集支部選考部会 (2)、研究部会連絡会 (1) 大会実行委員会 (5)、建築学会女性会員の会 (1)	() は回数
代議員半数改選	(留任) 遠藤国彦、千葉正裕、村尾 修 (新任) 有川 智、速水清孝	2017 年 4 月～2019 年 3 月 2018 年 4 月～2020 年 3 月
支部長改選	(退任) 小林 淳 (新任) 石川善美	2016 年 6 月～2018 年 5 月 2018 年 6 月～2020 年 5 月
常議員半数改選	(退任) 一條佑介、小藤一輝、野村俊一、野内英治、不破正仁 安田直民、山口邦雄 (留任) 大橋佳子、小林 仁、崎山俊雄、高木理恵、堀川真之、 町野東彦、本江正茂 (新任) 浅野耕一、畑中 友、齋藤和哉、飛ヶ谷潤一郎、二科妃里 橋詰 豊、山岸吉弘	2016 年 6 月～2018 年 5 月 2017 年 6 月～2019 年 5 月 2018 年 6 月～2020 年 5 月
企画運営委員	なし	
支 部 監 事	志賀俊輔、高橋典之	2018 年 6 月～2019 年 5 月

〈支部事業〉

研究委員会	[部会名] [部会長] [テーマ名] 構 造 : 木村祥裕 耐震補強技術における新しい試みに関する研究調査 材 料 : 西脇智哉 サステナビリティ確保に向けた建築材料からの取り組み 建築計画 : 坂口大洋 縮退社会における建築計画の課題抽出と実践化 地方計画 : 小地沢将之 小地域のエリアマネジメント 歴史意匠 : 永井康雄 歴史的建築及び資料の保存・活用に関する研究 環境工学 : 小林 光 東北地方の建築・都市の統合的な環境負荷削減のあり方に関する研究 施 工 : 飯藤将之 建築分野における最新技術とその施工法について 建築デザイン教育 : 櫻井一弥 東北地方の建築デザイン教育の質的向上に関する研究 災害調査連絡会 : 佐藤 健 東北地域における地震及び各種災害が発生した際の調査、広報に関わる 連絡や調整および関連事業の企画立案と支援	
本部・支部研究助成 金による研究	・災害時の避難所となる空間構造物の耐震性能調査と非構造部材の損 傷防止法の開発 構造部会 (研究代表者 木村祥裕)	2018 年 4 月～2019 年 3 月
支部研究報告会	2018 年度第 81 回東北支部研究報告会 研究報告集第 81 号計画系・構造系刊行 発表題目 79 題 2018 年度第 4 回東北支部デザイン発表会 発表題目 9 題	2018 年 6 月 16 日 青森県観光物産館アスパム
支 部 主 催 支 部 共 催 イ ベ ン ト	1. 支部主催 1) 建築文化週間事業 2) 第 29 回「東北建築作品発表会」の開催 (仙台市) 3) 第 39 回「東北建築賞」の選考 4) 第 38 回東北建築賞表彰式 5) みちのくの風 2018 青森	2018 年 10 月 2018 年 10 月 6 日 2018 年 10 月～2019 年 1 月 2018 年 5 月 12 日 せんだいメディアテーク 2018 年 6 月 16 日

	<ul style="list-style-type: none"> ・支部研究報告会と招待講演（会長基調講演会） ・第4回建築デザイン発表表彰式 ・第38回東北建築賞受賞作品展示会、JIA 青森地域会作品展示会 <p>2. 支部共催</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 親と子の建築講座・建築文化週間事業 2) 第38回東北建築賞作品展示会 仙台市、盛岡市、山形市、由利本荘市、八戸市、郡山市 <p>3. 女性会員の会 2018</p>	<p>青森県観光物産館アスパム</p> <p>2018年9月～12月</p> <p>2018年6月～2019年2月</p> <p>未定</p>
研究部会主催	<ol style="list-style-type: none"> 1. シンポジウム 2. その他、部会ごとに講習会・研究会・見学会などを適宜開催 	
表彰	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第38回東北建築賞作品賞部門 作品賞4点、特別賞1点 研究奨励賞部門 1作品 2. 日本建築学会設計競技全支部入選者表彰代表者4名 3. 日本建築学会功労者表彰 法人会員2法人、個人会員4名 	<p>2018年5月12日</p> <p>せんだいメディアテーク</p>
支所活動	<p>青森支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員協議会 ・第38回東北建築賞作品展示会：八戸市 ・講習会 <p>秋田支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第38回東北建築賞作品展示会：由利本荘市 ・第47回秋田県工業系高校生による建築設計作品コンクール <p>岩手支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第38回東北建築賞作品展示会：盛岡市 <p>山形支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第38回東北建築賞作品展示会：山形市 ・「親と子の都市と建築講座」 <p>福島支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第38回東北建築賞作品展示会：郡山市 	<p>2018年7月</p> <p>2018年10月</p> <p>2019年2月</p> <p>2018年7月</p> <p>2019年2月</p> <p>2018年11月</p> <p>2018年6月</p> <p>2018年7月</p> <p>2019年2月</p>
刊行活動	<p>支部年報第38号発刊</p> <p>東北支部研究報告集第81号計画系・構造系（第4回東北支部デザイン発表会込）CD-ROM 発刊</p> <p>東北建築作品集（第29号）発行</p>	<p>2018年5月12日</p> <p>2018年6月16日</p> <p>2018年10月6日</p>

〈支部共通事業〉

講習会	「鉄筋コンクリート構造計算規準」改定講習会	2019年2月
展示会	<p>全国・大学高専卒業設計展示会</p> <p>山形市、由利本荘市、仙台市（東北工大）仙台市（大会）、郡山市、八戸市</p>	2018年6月～2018年11月
審査会	<ul style="list-style-type: none"> ・2018年度支部共通 日本建築学会設計競技 課題「住宅に住む、そしてそこで稼ぐ」 ・日本建築学会「作品選集2019」東北支部選考部会 	<p>2018年7月</p> <p>支部事務所会議室</p> <p>2018年6月～9月</p> <p>支部事務所会議室</p>

法人・賛助会員

阿部建設(株)	(株)阿部重組
(株)工藤組	(株)三上構造設計事務所
(株)関・空間設計	千田総兵衛建築事務所
鹿島建設(株)	(株)本間利雄設計事務所+
(株)久米設計	地域環境計画研究室
(株)熊谷組	東日本旅客鉄道(株)
清水建設(株)	東北電力(株)
仙建工業(株)	一般社団法人
大成建設(株)	東北空気調和衛生工事業協会
(株)竹中工務店	八戸工業大学
(株)昴設計	クレハ錦建設(株)
戸田建設(株)	日本原燃(株)
(株)ユアテック	(株)楠山設計
西松建設(株)	(株)ティ・アール建築アトリエ
(株)安藤・間	(株)I N A 新建築研究所
堀江工業(株)	(株)東北開発コンサルタント
前田建設工業(株)	山形県立図書館
(株)ピーエス三菱東北支店	日本大学図書館
(株)三菱地所設計	東北芸術工科大学
(株)山下設計	日刊建設産業新聞社
(株)粹設計	仙台コンクリート試験センター(株)
東日本興業(株)	

一般社団法人 日本建築学会東北支部

支部年報第 38 号
2018 年 5 月 12 日発行

編集責任者（図書情報担当常議員） 小林 仁
